

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

ワークライフバランス推進委員会 研修会開催される

令和8年1月25日、第1回ワークライフバランス推進委員会研修会を埼玉県地域医療教育センターにて開催した。講師に埼玉県臨床検査技師会監事である細谷博光氏を迎え、「聞いてみませんか？資産運用のヒント」と題して講演があり、盛況のうちに終了した。

以下、研修会に参加した会員の感想を掲載する。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター 松崎 理絵

研修を通じ、将来の備えを具体化するヒントを多く得られました。実践中の税制優遇(iDeCo/NISA)威力を再確認できただけでなく、保障を掛け捨て保険に絞るコスト意識や、出口戦略としての退職金の知識など、自分に欠けていた視点に気づくことができました。今後は学んだ「財務テクニク」を活かし、より効率的な家計運用を継続していきます。企画・準備に尽力いただいた事務局の皆様に、心より感謝申し上げます。大変満足度の高い研修をありがとうございました。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立循環器・呼吸器病センター 島田 春奈

新NISA？ iDeCo？ 聞いたことはあるけどあまりよく知らない…。公的年金？退職所得？まだ具体的に考えたことない…。ということで、ワークライフバランス推進委員会主催の「聞いてみませんか？資産運用のヒント」研修会に参加してみました。講師の細谷先生が身近な話で分かりやすく解説してくださったので、難しく感じがちなお金の知識を楽しく学ぶことができました。「年金を70歳から受け取る(繰り下げ受給)よりも、65歳で受け取ってNISAを買い、70歳で引き出した方がお得かも」というコソッと話もありました(笑)。節約や投資、保険のことなど自分のライフプランを資金面から見つめ直す貴重な機会となりました。ありがとうございました。



研究班研修会報告

テーマ 病理・細胞・血液検査研究班合同研修会

「悪性リンパ腫を読み解く」～病理・細胞・血液検査からのアプローチ～

主催 病理検査研究班

実施日時：2025年10月24日 18時00分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：リンパ腫の分類とその病理組織像 ～白血化しやすい病型を含めて～

講師 1：百瀬 修二（埼玉医科大学総合医療センター 病理部）

講演 2：血液検査からのアプローチ ～フローサイトメトリー解析から病理細胞まで～

講師 2：堀口 大介（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 3：症例検討 ～フローサイトメトリー解析から病理細胞まで～

講師 3：鶴岡 慎悟（独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター 病理診断科）

参加人数：会員190名 関連団体1名

出席した研究班班員：三鍋慎也 細沼佑介 小島朋子 松本祐弥 遠山人成 三瓶祐也 渋谷樹
佐藤達也 石川勇貴

研修内容の概要・感想など

今回、悪性リンパ腫に関する診断の過程や推定の方法を、多角的に読み解くことをテーマとして開催した。

百瀬医師は、リンパ腫の分類とその病理組織像を解説した。悪性リンパ腫はWHO分類に基づいて分類が行われ、初版から比べると多岐にわたるものとなり、2024年には第5版が出版された。病型の多さは、治療の選択や生物学的・病理学的な理解の基礎、予後予測と臨床研究の共通言語として必要とのこと。B細胞は分化・成熟過程における各段階の細胞が由来となって腫瘍化がなされるため、その過程を知ることが肝要である。B細胞の成熟過程で発現する抗原を免疫組織化学で染め分けることで、どこの分化段階の腫瘍であるのかを推定することが可能である。分子学的に分類される病型もあるため、検索にFISHを用いる可能性もある。遭遇率の高いDiffuse Large B-cell Lymphoma, NOSは他の病型を否定するために多くの抗体を用いることが避けられないとのことだった。T細胞のリンパ腫においてもガイドラインに準拠した治療法が設定されているため、病型としては多くはないが正しく診断することが望まれているとのこと。各病型に必要な検索項目としては免疫組織化学のマーカーや原発部位の特定が挙げられた。また、白血化しやすい、慢性リンパ性白血病、リンパ形質細胞性リンパ腫などの病型を免疫組織化学やフローサイトメトリーなどを踏まえて症例提示しながら解説した。最後に、悪性リンパ腫の診断は形態、分子（遺伝子）、臨床像を総合的に加味することが必要であるため、いずれも欠けることなく診断することが重要とのことであった。

堀口氏は血液検査からのアプローチとしてフローサイトメトリーの原理、報告書の解釈および判定方法について症例検討を交えて解説した。フローサイトメトリーとはサンプル中に存在する細胞を光や蛍光色素を用いて迅速かつ正確に測定する検査であり、前方散乱光及び側方散乱光、蛍光により細胞の大きさ・複雑さ・種類を識別すること。報告書における2種類の散布図は、サイトグラムと呼ばれ各軸に前方散乱光と側方散乱光、白血球共通抗原CD45と側方散乱光を設定したもので、各細胞がどのように分布するかを提示したものである。サイトグラムからゲーティングされた表面抗原の解析では、サイトグラム上の選択した細胞集団について、2種類の表面抗原の発現の有無がわかるようになっている。腫瘍の種類に特化した抗体がセットになっており、臨床診断に合わせてそれらを解析に使用する。さらに、成熟リンパ系腫瘍の診断については各病型により特徴的な表面抗原を細かく観察すること。最後に白血化している2症例の症例提示し、臨床経過、骨髄の細胞像、MPO染色、フローサイトメトリーの結果から考える症例を各検査内容の説明を交えながら解説した。フローサイトメトリーは形態学では限界のある症例を表面抗原の違いにより鑑別できる検査だが、ゲーティングを間違えると

正しい結果が出ないことから、正しい知識が必要な重要な検査であることがわかった。

鶴岡氏は細胞検査の説明からフローサイトメトリーの結果と細胞像について症例提示した。リンパ節の細胞検査は採取方法として穿刺吸引または組織からの捺印により採取され、質的評価を求められる検査となることが多い。出現細胞の大きさ、単クローン性の増生や上皮性結合の有無について重点を置き判定するが、ときに異型度が乏しい小型細胞中心の症例は判定に苦慮する場合があるとのことだった。次に症例検討を2症例行った。症例検討の流れとしてフローサイトメトリーの結果と細胞像を供覧し、最後に組織像を示した。1症例目として遭遇率の高いDiffuse Large B-cell Lymphomaは、フローサイトメトリーの検査でリンパ球の増加とリンパ球のゲーティングによる表面抗原の解析からB細胞系腫瘍と推定でき、各表面抗原と細胞像から病型を推定する。2症例目のアミロイドーシスは、フローサイトメトリーの検査結果では反応性リンパ節と類似しているが、臨床症状および経過では悪性リンパ腫に類似しており、細胞像ではメタクロマジーを示すライトグリーン好性の無構造物が観察され、多角的なデータを総合的に判断しないと正しい診断に至らない可能性がある。血液疾患の診断には検査間の相互理解による総合的なアプローチが必要であり、各検査を共に理解して総合的・多角的に診断することが重要であると感じた。

(文責：佐藤達也、石川勇貴)

テーマ **できるようになると楽しい心エコー左室GLS 左室GLSを計測できるようになろう！**

主催 生理検査研究班

実施日時：2025年11月27日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：左室GLS計測の基本とポイント ～「とりあえず測った」を「ちゃんと測れた」に～

講 師 1：大内 輝（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター）

講 演 2：症例提示 ～分かると面白い！多種多様な左室GLS～

講 師 2：松平 悠（さいたま赤十字病院）

参加人数：会員87名

出席した研究班班員：南雲涼太 横尾愛 新井雅人 間中樹里 松平悠 草間冬子

研修内容の概要・感想など

今回、「できるようになると楽しい心エコー左室GLS 左室GLSを計測できるようになろう！」を主題に、大内氏と松平氏が講演をおこなった。

講演1は、大内氏による左室GLSの基本と計測ポイントの解説であった。GLS（Global Longitudinal Strain）はスペックルトラッキング法を用いた左室の長軸方向のストレイン解析であり、左室収縮能の指標として用いられている。LVEFと比較し、より早期に収縮能低下を検出できるとされている。講演ではLVEFとLVGLSの違いについての説明があり、GLSの測定誤差は検者の熟練度に依存せず再現性が高いと報告されているとのことであった。計測時の注意点として、適切な画像の描出、適切なフレームレート、視野深度等が挙げられていた。心尖部が描出できていない症例でのGLS計測では、同一患者の適切な描出画像と比較しGLS値が数%違っており、心尖部を描出することの重要性を認識した。

講演2は、松平氏による虚血性心疾患、肥大型心筋症、左脚ブロックの症例提示であった。心筋虚血によるストレイン変化について、ストレインカーブを用いての説明から始まり、各肥大型心筋症でのGLSの見方、左脚ブロックに特徴的な壁運動等の解説があった。ストレインカーブの形状について特徴ごとに説明があり、ブルズアイの結果だけでなくストレインカーブも併せて疾患を考えていくことの面白さを実感した。また、左室肥大型心筋症の分類鑑別にも活用でき、特に心尖部肥大型心筋症では心尖部瘤の有無も参考にできるとのことであった。

左室GLS計測には様々な注意点、活用方法があるが、まずはきれいな画像を描出することを心がけ、正確な測定結果を臨床に報告できるようにしていきたいと改めて感じた。今回の研修会で学んだことを忘れることなく、日々精進していきたいと思う。

(文責：草間冬子)

テーマ 肝線維化マーカーについて

主催 血清検査研究班

実施日時：2025年12月18日 18時30分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：肝線維化の進展を定量的に評価 ～糖鎖マーカー「M2BPGi」のご紹介～

講師 1：村山 勝俊（シスメックス株式会社）

参加人数：会員39名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 吉田萌香 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では糖鎖マーカーM2BPGi（Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体）の紹介を中心に肝線維化や肝疾患など幅広い内容の講演であった。

M2BPGiは肝臓の線維化ステージの進展を反映する糖鎖マーカーであり、糖鎖マーカーを用いた肝臓の線維化検査技術を初めて実用化したものである。健常人では低値であり、肝線維化ステージの上昇の程度に伴い有意に高値になり、既存の肝線維化マーカーよりも高いAUCを有している。反応原理はCLEIA法で定量的な測定値による数値の増減をモニタリングしている。

肝線維化とは、肝臓の損傷部が過度の組織増生を伴って治癒することで、肝臓内に過剰な結合組織が蓄積した状態を指す。慢性的に進行し、門脈圧亢進症や肝硬変を招く原因となり診断は肝生検に基づく。しかし、肝生検の課題は何度も頻回に行うことができず、サンプリング位置により差異が生じるためゴールドスタンダードではあるものの万能ではないということであり、血液検査や超音波検査のフォローが必要である。

現在、国内では推定1000～2000万人の非アルコール性脂肪肝患者がおり、そのうち100～200万人が非アルコール性脂肪肝炎に進展すると考えられている。非アルコール性肝疾患とはアルコール習慣はないが健康診断で脂肪肝と指摘され、肝機能検査に異常を認められることである。非アルコール性脂肪肝炎を発症し肝線維化が進展すると肝硬変や肝がんの発症リスクがあり、近年背景疾患が非アルコール性脂肪肝炎による肝がん発生率の増加が注目されている。このため、健診のオプションでM2BPGiを追加することで、B型肝炎、C型肝炎による慢性肝炎だけでなく、非アルコール性肝疾患患者への早期治療が可能になる。

今回の研修会では、肝線維化を反映するM2BPGiの解説や肝線維化、肝疾患の概要から検査など幅広い解説があった。M2BPGiは肝線維化の定期的な評価として期待されており、治療の早期介入が可能になるため、今後の臨床検査現場への浸透を期待する。

（文責：吉田萌香）

テーマ 輸血療法の実施について

～『輸血療法の実施に関する指針』を再確認しよう～

主催 輸血検査研究班

実施日時：2026年1月20日 19時00分～20時15分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：血液センター 製剤の適正使用について

講師 1：廣木 かほり（埼玉県赤十字血液センター）

参加人数：会員61名

出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 大垣秀友 渡邊寧々

研修内容の概要・感想など

今回は輸血療法の実施について～『輸血療法の実施に関する指針』を再確認しよう～テーマとしてWeb研修会を開催した。

我々が日々業務として関わっている輸血について、実際の考え方や、管理体制の在り方、使用する血液製剤の安全性、各検査を行う上での基本的なルールなどが記載されている指針について、それぞれのセクションから重要な事項を抜き出した資料を使用しており、大変わかりやすく感じた。

実際、業務を行うにあたり、担当外の技師や日直帯のみ輸血に関わる技師など、専任の技師以外のスタッフが指針を詳細まで確認し、把握するところが困難な状況も否定できないためこういった研修会を開くことによって、より技師のそれぞれの理解も深まることが期待でき、意識も高まるのではないかと感じた。特に、緊急時の輸血や、大量輸血時の対応についても様々な状況下における対応法が記載されており、今回の研修会でも内容が紹介された。夜間の当直業務において、現場の技師が抱える不安として緊急輸血や大量輸血が候補として挙がることは珍しくないため、指針について学びを深めておくことで、結果、患者への安全な医療の提供に繋げることが期待できると感じた。

(文責：渡邊寧々)

テーマ 症例検討会 ～ 尿検体から迅速診断 ～

主催 一般検査研究班

実施日時：2026年1月22日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：レジオネラ症とリボテストレジオネラのご紹介

講師 1：塚田 正敏（極東製薬工業株式会社）

講演 2：症例1

講師 2：福島 明音（防衛医科大学校病院）

講演 3：症例2

講師 3：前田 千穂（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 4：症例3

講師 4：柿沼 智史（川口市立医療センター）

参加人数：会員51名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 松本実華 織田喜子
林達也 福島明音

研修内容の概要・感想など

今回、「症例検討会～尿検体から迅速診断～」について、塚田氏・福島氏・前田氏・柿沼氏の4名を講師にWebにて開催した。

講演1では塚田氏よりレジオネラ症の概要とリボテストレジオネラの特徴についての解説がなされた。

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症であり、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾルの吸引などによって感染・発症することが知られている。発症は夏季に多く、性差や地域差もあることも示された。病型は劇症型のレジオネラ肺炎と一過性のポンティアック熱の2つに分類され、特にレジオネラ肺炎においては迅速な診断が重要である。診断法としては培養検査、尿中レジオネラ抗原検査、遺伝子検査（LAMP法）などがあり、いずれかが陽性となった場合にレジオネラ症と診断される。今回紹介されたリボテストレジオネラは尿中抗原検査であり、従来の検査キットでは検出が困難であった血清型1型以外についても、血清型1～7のL7/L12抗原を検出可能である点が報告された。

講演2では、症例1として福島氏より、横紋筋融解症により急性腎不全を呈した症例が報告された。

本症例では長時間の痙攣発作を契機に横紋筋融解症を発症し、生化学検査においてCK、LD、AST、ALTの上昇が認められた。併せて、腎機能マーカーであるBUN、クレアチニンの上昇がみられ、腎機能障害も呈していた。第5病日に提出された尿では尿定性検査にて潜血陽性を示した一方、尿沈渣検査では赤血球はほとんど認められず、潜血反応と沈渣所見の乖離が確認された。その後の経過中、第29病日には尿沈渣中に繊維束状の円柱が出現し、免疫組織化学染色（抗ミオグロビン抗体）により、ミオグロビン円柱であることが証明された。本症例を通して、尿定性検査と尿沈渣検査を併せた評価および、尿沈渣所見の経時的な観察が病態把握において重要であることが示された。

講演3では症例2として前田氏より、糖尿病患者の検診時に提出された尿検体を契機に診断に至った症例が報告された。

本症例では尿定性検査にて潜血反応陽性を示し、尿沈渣検査では非糸球体型の赤血球が認められた。併せて尿沈渣中に紡錘型の細胞が確認された。尿細管上皮細胞、尿路上皮細胞、尿路上皮細胞由来の腫瘍細胞、扁平上皮癌細胞など、紡錘型を呈しうる細胞の所見を踏まえた鑑別の進め方について、詳細な解説がなされた。

その後の精査により、本症例では腎盂癌および膀胱癌が診断された。症例を通して尿定性検査および尿沈渣検査は、詳細な精査につなげるためのスクリーニング検査としても重要な役割を果たすことが示された。

講演4では症例3そして柿沼氏より、糖尿病患者において尿沈渣中にフィブリン円柱を認めた症例が報告された。

フィブリン円柱については、無染色像および染色像を含む多数の沈渣画像が提示され、形態学的特徴や他の円柱との鑑別点について解説がなされた。検査結果および臨床情報から、糖尿病性腎症を背景とした病態が示唆された。

本症例を通して、フィブリン円柱をはじめとする特殊円柱は鑑別が難しいものの、臨床所見も考慮しながら可能な限り報告に努めることの重要性が示された。日常業務における知識・技能の向上性が求められる内容であった。

(文責：松本実華)

テーマ 腸内細菌とプロ・プレ・シンバイオティクス ～『腸から健康へ』の科学～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2026年1月30日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科-20点

講師：太田 俊久 (株式会社ヤクルト本社)

参加人数：会員25名 非会員4名

出席した研究班班員：

(公衆衛生検査研究班) 吉田翔平 鈴木由美子 坂田竜二 佐藤和 菊地孝司

研修内容の概要・感想など

今回は、「腸から健康へ」をメインテーマとして、まず、腸内細菌についての基礎的な説明があった。ヒトの腸内には、約1,000種類、約100兆個の腸内細菌が生息しており、その重さは約1kgと言われている。便の約70%を水分が占めており、水分以外の割合としては、食べ物のカス、腸内細菌、消化管由来の細胞が約30%ずつを占めている。次に、腸内細菌とヒトの関係について説明があった。腸内細菌にとって、ヒトの腸内は住みやすい環境であり、ヒトの摂取した食べ物をエサとして利用している。一方、腸内細菌はヒトが消化吸収できないものを分解し、侵入してきた悪い菌の増殖を抑えており、ヒトに対して良い影響を及ぼしている。このように、ヒトと腸内細菌は「共生」の関係を築いている。腸内細菌はヒトの健康と密接な関係を持っていることがわかってきており、肥満や糖尿病、大腸がんとの関係だけでなく、自閉症やうつ病といったメンタルヘルスとの関係も解明されてきている。最後にプロ・プレ・シンバイオティクスの説明があった。プロバイオティクスとは、十分量を摂取した時に宿主に有益な効果を与える生きた微生物と定義されており、それらを摂取することで、腸内環境のバランスを改善し、免疫力の強化が期待される。プレバイオティクスとは、分解・吸収されることなく腸内細菌の栄養源となる難消化性の食物繊維やオリゴ糖等を指す。プロバイオティクスとプレバイオティクスが合体したシンバイオティクスは、胆道がん等の手術後の感染症の合併を抑える目的で使用が始められている。「腸から健康」のテーマのとおり、プロバイオティクスやシンバイオティクスを活用することで、ヒトの健康状態を高める可能性があることは大変興味深い内容だった。講演後の質疑応答も活発であり、参加者の腸内細菌への興味の高さを実感した。

今後も参加者から高い満足度を得られる研修会を企画していきたい。

(文責：菊地孝司)

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第11回 理事会議事録**

日時：令和8年2月12日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
西田 佐瀬 網野 藤原 伊藤
塚原 神嶋 笛木 長谷川
神戸 小林 工藤 久保田
長岡 原 土田

Zoomにて参加

(理事)三木

(監事)島村

欠席：(監事)細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和8年1月8日～令和8年2月11日)

1月8日(木)令和7年度第10回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、
伊藤、塚原、神嶋、長谷川、神戸、
小林、工藤、久保田、長岡、原、
土田、島村、細谷

1月13日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

1月14日(水)ホームページリニューアル打ち合わせ：濱本、塚原

1月15日(木)さいたま市保健所精度管理委員会：山口

1月16日(金)令和8年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、
伊藤、塚原、神嶋、長谷川、笛木、
神戸、小林、工藤、久保田、原、
土田、島村

1月18日(日)タスクシフト：

三木、猪浦、濱本、佐瀬、藤原、
小林、西田

1月23日(金)日臨技賀詞交歓会：

松岡、猪浦、神戸

1月24日(土)第5回日臨技理事会：猪浦

1月25日(日)ワークライフバランス推進委員会
研修会：猪浦、塚原、神嶋、小林

1月27日(火)ホームページリニューアル打ち
合わせ：濱本、塚原

1月30日(金)令和8年度日臨技 関甲信支部・
首都圏支部医学検査学会(第62回)
第1回実行委員会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
三木、佐瀬、網野、藤原、塚原、
神嶋、長谷川、笛木、神戸、小林
工藤、久保田、原、土田

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 1月19日(月)第67回全日本病院学会in埼玉
の後援回答をした。

2) 1月29日(木)日臨技地域貢献賞について当
会会員荻野毅史氏の受賞が決定した。

3) 川越市会計年度任用職員(衛生検査所立入
検査員)に、神山清志氏、荻野毅史氏、松
岡優氏、猪浦一人氏を推薦した。

4) 令和7年度臨時会員総会のシナリオ、時程
表について (別紙資料1)

2 総務部

1) 1月14日(水)ホームページリニューアルに
関する打ち合わせを行った。

(別紙資料2)

2) 1月18日(日)(埼玉県038)タスクシフト指
定講習会：三木、藤原、西田、小林、濱本、
佐瀬、猪浦 (別紙資料3)

3) 1月27日(火)ホームページリニューアルに
関する打ち合わせを行った。(別紙資料4)

4) 2月6日(金)研究班ホームページ担当者を
対象とした運用説明会とリニューアル打ち
合わせを行った。

5) 2月15日(日)だより第561号発行予定。

6) 第54回埼玉県医学検査学会の学会長候補に
ついて

学会長候補者の選任について本人より内
諾をいただいた。令和8年度定時総会にて
議案審議する予定。

- 7) 来年度より、タスクシフト講習会は支部開催となる。6月21日(日)埼玉県が担当で開催予定。
- 3 事業部**
- 1) 1月16日(金)令和8年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会を開催した。(別紙資料5)
- 2) 1月25日(日)ワークライフバランス推進委員会研修会を開催した。(別紙資料6)
- 4 学術部**
- 1) 2月9日(月)生涯教育研修プログラム(4・5月)を埼臨技HPへ掲載した。
- 2) 今後、生涯教育研修プログラム内「現地開催」という用語を「会場開催」へ変更する。
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和7年度正会員費1名5,000円、入会金1名1,000円、合計6,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金82,500円の入金があった。
累計776,000円/17回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第560号Web版10P50,600円を支払った。
- 4) 令和8年度賀詞交歓会の収支報告について
(別紙資料7)
- 7 精度管理委員会**
特になし
- 8 一都八県会長会議**
特になし
- 9 日臨技関甲信支部**
特になし
- 10 日臨技**
- 1) 1月23日(金)令和8年度日臨技賀詞交歓会に出席した。(別紙資料8)
- 2) 1月24日(土)第5回日臨技理事会が開催された。(別紙資料9)
- 3) 6月21日(日)関甲信支部タスクシフト指定講習会を埼玉県担当で国際医療専門学校にて開催することとなった。
- 11 第53回埼玉県医学検査学会**
- 1) 1月13日(火)第15回実行委員会が開催された。(別紙資料10)
- 12 令和8年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)**
- 1) 1月30日(金)第1回学会実行委員会が開催された。(別紙資料11)

Ⅲ. 承認事項**1 事務局**

1) 会員動向(令和7年度分)

令和8年2月1日現在

会員数 3,694名 [令和6年度会員数3,612名]

(新入会員261名)

賛助会員 68社 [令和6年度72社]

承認された。

2 総務部

1) ホームページリニューアルに伴う仕様変更について (別紙資料12)

上記の件について、三木隆治総務部長より発言があり、濱本隆明ホームページ委員長から進捗状況と課題点の説明があった。審議の結果、定款諸規定はPDF一括掲載とする。総会議案書、理事会議事録、埼臨技だよりは埼玉県の監査があるため最低3年以上閲覧可能とする。求人案内は現行のホームページで1年間は掲載するとした。今後、リニューアルに際し、承認が必要なものは三役承認とすることで承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 血液検査研究班4月の事業変更について

(旧) 精度管理報告

(新) 令和7年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血液)及び日常業務に必要な基礎知識

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第53回埼玉県医学検査学会

1) 第53回埼玉県医学検査学会収支決算書の承認をいただきたい。(別紙資料13)

上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

9 令和8年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)

特になし

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

- 1) 令和9年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会
日時・場所について

(案) 日時:令和9(2027)年1月15日(金)

会場:ステラ・デル・アンジェロ

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、検討の結果、仮決定するとした。

4 学術部

- 1) 新ホームページにおける生涯教育研修プログラム掲載方法について (別紙資料14)

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、検討の結果、Googleカレンダーを用いた運用をすとし、各部局事業予定も掲載していくとした。

なお、Googleのプログラム使用についてスイッチ社に違約金等の不具合が生じることがないかも確認するとした。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

あつという間に今年度も残りわずかとなりました。埼臨技の行事も会員、賛助会員、皆様のご協力のもと、無事遂行することができました。ご協力ありがとうございました。

本年度を振り返り埼臨技事業の新たな挑戦として「検査と健康展」がありました。「検査と健康展」自体は毎年行っていましたが、健康フェア的なイベントでした。それを今年から小中高校生向けに「臨床検査技師が直接対応する体験型教室」にリニューアルし開催しました。初めてのことで手探りの部分も多く不安ではありましたが、そこは埼臨技研究班の皆様、参加者の興味を誘う企画を用意していただき、アンケートでは「臨床検査技師に興味を持った」「参加してよかった」など、この仕事の魅力を伝える良い機会となりました。

来年度は埼玉県で支部学会を開催します。新たな挑戦の年になると思いますが、皆様と一緒に乗り越えていきたいと思えます。来年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(猪浦 記)

